第 106 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 26 年 5 月 12 日提出）

モジュール・フォーラム

【趣　旨】

モジュール形式による教養教育の第１クールを総括し、課題を整理するとともに改善施策を検討します。討論資料として、モジュール科目担当教員の総括調査と学生による授業評価の結果を準備します。

【対　象】　全教職員
特に教務委員会委員・教養教育実施専門部会委員・評価・FD 教育改善専門部会委員・モジュール科目小委員会委員

【日　時】　平成 26 年 3 月 17 日（月）16:00～17:30（教務委員会終了後）

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　事務局 3 階　第 2 会議室

【講　師】　大学教育イノベーションセンター　　准教授　　岡田　佳子
大学教育イノベーションセンター　　助　教　　川越　明日香
学生による教育改善のための協議会代表　　歯学部３年　　遠藤　眞次

【主　催】　教務委員会

【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

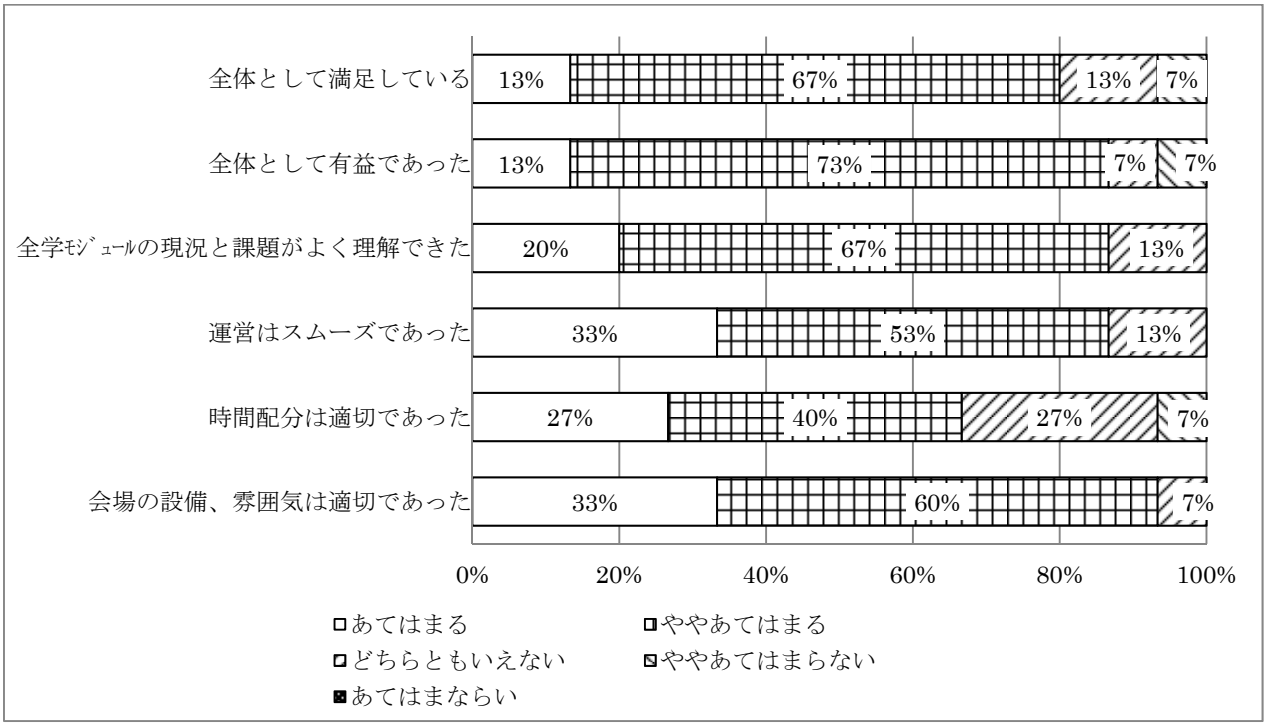
【参加者】

24 名（受講証発行対象者：24 名）

所　　属	人　数
教育学部	2
経済学部	3
医歯薬学総合研究科(医系)	1
医歯薬学総合研究科(保系)	2
医歯薬学総合研究科(歯系)	2
医歯薬学総合研究科(薬系)	2
工学研究科	2
水産･環境科学総合研究科(環境)	3
水産･環境科学総合研究科(水産)	3

国際健康開発研究科	1
病院	2
核兵器廃絶研究センター	1
計	24

【参加者からの評価】（回答者：15 名）



○ 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- モジュールの現状と課題が分かった。
- 問題点についてよく理解できた。
- モジュールによって、しっかり振り返りをしているところと、そうでないところがある。改善に向けて、モジュール実施状況の共有する場が必要かと思います。
- 今回アンケート結果と、評価、分析はよく分かりました。しかし、そこでみつかった課題点についてシステムの問題、運営側の問題の指摘も多かった様に思います。こうした問題に具体的にどうとり組んでいるのか、解決していく予定なのかという点はほとんど分かりませんでした。例えば教員間の連携をどの様に深めていくのか、クリッカーでＰＰＴがダウンする問題は解決するのかなど・・・。
- 教官間での連携はなかなか困難。人の講義内容までは立ち入れない。
- 第３クールが終った時点で、根本的な再検討を加えるのがよい。サブメジャーへと進化させるのか、元の教養教育に（あるいはそれに近いもの）に戻すのか。

・　もう少しテーマを絞り込んだ方が、議論が深まったのではないかと思いました。
・　学生の声によると、モジュール形式の全学教育の必要性を感じていない学生が多い。モジュール教育自体の是非を再度検討した方が良いのではないだろうか。
・　集計データとＰＰＴデータに間違いがあるようです。

○　内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。
・　学生調査、意見は今後の講義に生かしていきたいと存じます。
・　学生のアンケートについてもっと時間をかけてほしかった。本音を知りたい。（平均値だけでは分からない。）
・　特に問題はなかったです。むしろ、よくオーガナイズされていました。あえて言うなら、学生からの意見にもっと焦点を当てた方がよかったかもしれません。
・　良い結果と悪い結果がならされているようです。

○　今後、ＦＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。
・　アクティブラーニング事例集を全教員に配布したらと思います。
・　参加者の増加が望ましい。

【総　括】

このFDは､長崎大学の新しい教養教育の柱であるモジュール科目の第１クールを終えて、その現状を総括するとともに現れてきた問題点・課題を、授業を担当した教員および受講した学生双方のアンケート結果から検討したものであった。討議した資料は、単にアンケートを集積・解析したものだけでなく、担当者が実際に行って感じた多くの意見や感想が述べられていた。また学生からの発表もあり、受講した側からの生の意見も聞くことができた。内容が豊富であったため、若干焦点がぼけてしまった感は否めなかった。また、参加者が24名と少なかったことは残念である。多くの課題や学生の不満も見えてきたが、これらを具体的にどのように改善して行くのかを真摯に、かつ早急に検討する場が必要である。また、よりよき教養教育にするために全教員が考えなければならない問題であると感じた。そのためにもここで使われた資料は学内全教員の目に触れるようにしていただきたい。

（文責：山下　樹三裕）